

3令和4年度 釜石商工高等学校第2回学校評議員会(議事録)

日時 令和5年2月20日(月) 14:00 14:00~15:00
会場 大会議室

1 開会のことば

2 学校長挨拶

- ・現在の学校生活の状況は、1、2年生は学年末考査を終え、学習、部活動のまとめの時期となっている。3年生は3月1日の卒業式目前であり、4月からの飛躍に期待している。
- ・今年度も新型コロナウイルス感染症に明け暮れたが、対策の上、生徒たちが工夫を凝らし、体育祭、文化祭、修学旅行など無事に実施できた。
- ・令和5年度5月からはコロナ対応が変化するが、コロナに限らず生徒を第一に考え、よりよい学校生活が送れるよう尽力していく。

3 報告 (1)各分掌から

総務部

- ・防火避難訓練では消火・防水訓練を実施した。防災講演会では自衛隊員を講師とし、負傷者の運び方など実践的な講習を実施した。今後、地域と関わる観点から、市の防災担当から情報を得てやれることを模索したい。
- ・学校行事は、短時間であれば全校生徒が集まれる状況となってきたが、卒業式は制限がかかった状況であり、形態を考えながら実施したい。
- ・PTA活動は、長く活動できない状態が続いた。一部委員会活動が再開となり、参加保護者からは良かったという感想を得ている。状況を考えながら継続させたい。

教務部

- ・授業が理解できたという割合が目標を上回った。授業に情報機器が多く取り入れられ、授業時点での理解は向上したが、試験となると理解率が低くなる傾向があり、検討したい。
- ・授業参観(互見授業)は全職員が実施した。本校の情報機器を取り入れた授業は他校よりも進んでいる。
- ・高校説明会では、多くの中学校を訪問し、本校の実情を説明し、要望などを聞いた。次年度の志願者数は83名を予想していたが、現在調整前で70人程度の希望者である。さらに魅力あることを企画し、志願者増加を目指したい。

生徒指導部

- ・校則検討委員会において生徒、教員で話し合いを行ってきた。制服の着用では校舎内でジャージ、防寒着の着用など臨機応援に対応できるようにした。令和5年度は猛暑に対応したポロシャツ、女子にはスラックスを希望者に導入出来るようにした。
- ・挨拶は、できる子とできない子がいる。こちらから率先してやってみせ、教えたい。
- ・交通安全は、次年度、自転車ヘルメットの着用が努力目標となった。安全のため付けさせたいと考えるが、課題となるであろう。
- ・問題行動が数件あった。分掌を超え、協力して指導にあたった。
- ・携帯通信端末は大きく使用の方法を見直す方針である。現在、試行期間を設けて使用させ、どのような課題が浮かび上がるか検証し、次年度にマナーやルールを提示したい。
- ・部活は以前の強制入部から推奨へと変わり、主体的、自発的な参加となっている。先生方も戸惑いながら指導にあたっている。
- ・生徒会活動はコロナ禍、知恵を出しあいながら実施している。他校との交流が多くはない現状がある。今後近隣である祥雲支援学校との交流を考えている。また生徒数の減少に伴う委員会の再編を検討している。
- ・入学してよかったという割合は、生徒8割、保護者9割であり、よい状況を継続させたい。

進路指導部

- ・決定率100%を目標にしていた。就職、進学、公務員それぞれ希望していた生徒は全員決定した。
- ・公務員は釜石市職員1名、自衛隊3名の計4名である。
- ・担任と生徒の面談相談サポートには、teams というソフトを使用した。企業や学校の情報を担任や生徒たちと共有できた。次年度はteamsを使い、生徒に対して早い情報提供が実施出来る仕組みを考えたい。

保健厚生部

- ・感染症の予防ではマスク着用と手指消毒を実施した。文科省の指示で毎朝実施する体温調査を紙媒体からスマホへ切り替えたところ、調査率が向上した。
- ・予定していた学校保健委員会は、開催日がコロナによる学級閉鎖の時期と重なり、中止となった。
- ・コロナウイルスの弱毒化により、次年度は国の対応が変わるであろうが、準じた指導を実施する。

教育相談部

- ・中学校での情報収集を実施している。入学後はテストバッテリー、ハイパーQU等の心理検査により生徒の情報収集を実施した。また今年はteams(forms)によるアンケートを実施し、悩みを抱えている生徒の情報が分かりやすくなった。悩みを抱えているとは書かずとも、気になる生徒がわかるようになり、声がけの実施や、状況に応じてカウンセリングを受けるよう促すなどした。
- ・カウンセリングを実施した生徒は33名である。今年度スクールソーシャルワーカーの利用者1名である。
- ・男子生徒が多いクラスに在籍する女子生徒1名の昼休みの居場所つくり空き教室を活用した。
- ・輝きプラン支援員が、支援に必要な生徒の情報をデータベース化し、学習状況、生活スタイルなどがすぐわかり、生徒理解に活用できるようになった。次年度もこのプログラムを役立てたい。次年度は外部との連携を強化したい。

図書部

- ・今後、県立図書館との連携をはかり多様な活用を目指す。
- ・校内映画会を8回実施した。
- ・NOTEを活用した新しい学校紹介を検討している。

情報管理部

- ・1人1台端末により、ICTを活用した授業を進めたい。
- ・NOTEによる情報発信を実施した。89回の掲載があり、多くの皆さんに見ていただきたい。

事務室

- ・エネルギー価格の高騰とエアコン活用の初年度で省エネを呼びかけた。
- ・私費の予算執行は、コロナの影響で予定の75%程度である。
- ・環境整備では、授業に支障のあるもの、緊急性の高いものなど、例年よりも比較的多く予算化され、グラウンド改修、はまゆりホール改修、電気電子科のパソコン40台が更新された。次年度は、機械科棟の修繕等、予算化に向けた要望をしていく。

機械科・電気電子科・総合情報科 … 学科

- ・資格取得、進路状況、授業の理解できる割合等を資料より確認していただきたい。総合情報科の課題研究では、ほぼすべてのグループが地域に出た活動を行い、コミュニケーション能力を向上させた。

1学年・2学年・3学年 … 学年

・2年が修学旅行を実施。今後、対外的な行事の活発化に期待。3年生は進路決定率100%となっている。

3 報告 (2)副校長から

学校評価アンケートの集計について

- ・毎年同じ項目で実施している。そう思う、ややそう思うという高評価がほとんどであった。
- ・分析結果の表から、昨年度よりも評価が高い傾向がみられる。
- ・さまざまな支援を要する生徒数が増加傾向にあり、生徒指導、教育相談にいつその充実を図っていく必要がある。項目の分析の高い評価の内容は、昨年度と同じような傾向である。昨年度は学校行事、PTA活動行事が低かったが、今年は若干上がった。
- ・記述はおもなものを抜粋している。生徒指導関係の校則について頭髮点検などは時代に合わないのではないかと、また髪形も自由にしてもいいのではないかとという意見も多くなってきている。進学の指導について、進学者は多くはないが要望として出ている。
- ・まとめとして、本校に入学して良かったという割合が、生徒82%、保護者96%と高い評価である。
- ・整容指導については生徒、保護者とも厳しいという回答が多い。今後、地域、社会の意見なども参考にしながら校則の見直しを進めていきたい。
- ・分かる授業についても高い評価を得ている。
- ・生徒たちの悩みにしっかりと向き合い、生徒たちに対する体制は連携を取りながら整えていく必要がある。
- ・部活動の大会成績も資料に掲載した。現在学校の懸垂幕は、なぎなた部(個人の部)で全国大会に出場する選手、ラグビーの東西対抗戦に出場した選手のものを掲げている。

4 意見交換

- ・目標に向かい努力し、達成をしているか、それ以上であると感じている。このように前に進めてもらいたい。
- ・コロナによる制約があるが収束に向かっている。チャンスがあれば校外の活動に目を向け、社会と交わる機会があればよいと感じる。ライオンズクラブは、組織内にレオクラブがある。従来実施してきた活動はコロナの影響で2年間中止であった。次年度は、活動が可能と思われる学校と連絡を取りあいながら進めたい。今後社会奉仕やボランティア活動は避けて通れないものであると考えている。チャンスがあるならば触れてよりよいものに進んでもらいたいという気持がある。3月の根浜海岸の清掃活動は、ライオンズクラブとレオクラブで企画したもので、北上と石鳥谷のレオクラブも参加する。地元の釜石レオクラブは、リーダー的な立場で、防災学習も含めて参加してもらおう。(回答)今年度の釜石商工のボランティアの活動は、釜石駅前の花を植える活動、献血呼びかけを実施した。3月には根浜海岸の清掃が予定されている。
- ・家庭学習の時間調査はどのように実施しているか。(回答)テスト前とテスト後に調査を行ったもので、その時間の違いを生徒に投げかけている。
- ・コロナ禍でリモート授業を実施とあるが、どのようなものか。(回答)インターネット環境で、コロナで登校できない生徒やどうしても登校できない生徒に教室の授業を公開している。ただし、教室では可能だが、教室以外では環境が整わず出来ない状況がある。
- ・市内での小中学校で不登校が多くなっているようだが、高校はどうか。(回答)人間関係がキーとなる。改善しようと試みるが、改善できない場合にリモートを提案することもある。教育相談部と連携しながら、教室や学校に復帰できるよう手だてをこうじている。
- ・0か100かということではなく、段階があると思われるので、いろいろな声を拾いながら対応してもらえればと思う。アンケートの悪い項目をつぶすことで、良いものに近づけるのではないかと。アンケートの結果が良くなってきており、努力が現れてきている。アンケートの結果を見てどのようにアプローチしていくかが重要で、気になる項目を少なくできればと考える。子どもたちのいきいきとした様子や、学校の良さ、実業的なものの魅力を、中学生や地域からも理解してもらい、活気のある学校になってもらいたいと思っている。
- ・情報系の機器について、機器の導入は必要なものが取り込めているか。(回答)この1年で国が決定したものが多く導入された。それらの機器をうまく使うために試行錯誤し、そのための要望も行い実現しているものもある。小中高ではひとり1台PCを購入するような働きかけが始まっている。情報化は国の

後押しで整備されてきている。

・自宅にPCがない生徒はどうなるか。

(回答)学校で貸し出すことになる。今は小学校からそのようなシステムとなっている。

・現在はコロナ禍で、多くの人が集まる機会は少なくなってきている。ただし集団の中で自分の意見を述べるディベート研修のような、場面に慣れていくことが必要であり、そのような教育をお願いしたい。

・学校で使う機器はタブレットかPCか。

(回答)授業ごとに使い分けを行う。学校のタブレットの貸し出しや、生徒自身のスマホもある。

・企業では、大学や高校でどのような機器で学習しているか関心をもっている。新入社員にPCを教え始めるところもある。

(回答)学校では基本PCの使い方を教える。

・部活動の部の数はどうなっているか。

(回答)部の数は減ってはいないが、今後見直さなければならぬとは考えている。人数が減ってきているため合同チームが増えてきている

5 学校長謝辞

学校の中で素晴らしいことをしていても地域は知ることができない。地域と一緒に活動を進めていくように考える集団でありたい。生徒を地域に出していきたい。授業に代えて外で活動させたい。また釜石市の防災訓練に生徒を参加させリアルな復興教育・防災教育を体験させ、習得させたい。地域に育てられる商工高校でありたい。

6 閉式のことば